

授業科目名(英文名) / Course title	S D G s 入門 / Introduction to SDGs				
担当教員(所属) / Instructor	木村 元(教養教育院)				
授業科目区分 / Category	教養教育科目 総合科目系				
地域課題解決型人材育成プログラム科目 / COC+Course	-	授業種別 / Type of class	講義科目		
開講学期曜限 / Period	2023年度 / Academic Year 前期 / Spring 他	対象所属 / Eligible Faculty			
時間割コード / Registration Code	105951	対象学年 / Eligible grade	1年 ,2年 ,3年 ,4年	単位数 / Credits	2単位
ナンバリングコード / Numbering Code	1X1-00041-3300				
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど) / Contact					
オフィスアワー(自由質問時間) / Office hours	木村 元(【前学期】火曜日 12:15~14:00 【後学期】月曜日 12:15~14:00 メールで事前に予約してから訪問して下さい)				
Moodleコース統合時間割コード / Moodle course join Registration Code					
Moodleコース登録教員名 / Moodle course registered Instructor					
MoodleコースURL / Moodle course URL	https://moodle51.u-toyama.ac.jp/course/view.php?idnumber=2023_105951				
各種教育プログラム1 / Various Educational programs1					
各種教育プログラム2 / Various Educational programs2					
各種教育プログラム3 / Various Educational programs3					
各種教育プログラム4 / Various Educational programs4					
各種教育プログラム5 / Various Educational programs5					
リアルタイム・アドバイス / Real-time advice	更新日				
毎回の授業に、ノートパソコンをお持ちください。 ()個人ワークや、グループ議論(グループワーク)に用いるため。					
日程は、8/29(火)、8/30(水)、9/14(木)、9/15(金)の4日間を予定しております(詳細は「授業計画」欄ご参照)。					
授業のねらいとカリキュラム上の位置付け(一般学修目標) / Course Objectives	教育目標 / Educational Goals				
この科目では、SDGs(sustainable development goals)という、2015年9月25日、第70回国連総会において採択された「持続可能な開発のためのアジェンダ2030」の内容を学びます。「持続可能な開発目標」(SDGs)とされているのは、17の目標に当たります。この全体像を把握し、これからの日本や世界を生きて行くみなさんにSDGsを意識した「ものの見方」を身につけてもらいたいと意図しています。					
とくに、“共通言語”としてのSDGsの性質に注目して、将来、文系/理系を問わず異分野の仲間達と、社会問題解決に向けた対話をするための基礎を身につけて頂くことを目指します。また、SDGsに向けて挑戦をつづける実務者2名()によるゲスト講義2回をとおして、現場の最新動向をお伝えするとともに、将来の職業選択(大学で何を学べば良いのか等)の参考として頂くことも念頭においております。()担当教員も実務経験あり(後述)					
原則として、毎回の授業でグループ議論(グループワーク)をおこなう予定です。このうち3回程度、まとまった時間をかけたグループワークをおこないます。“正解のない問い”に対して、どのようにして「問題の構造」を捉えられるか、また、どのようにすれば論理的かつ説得力をもって「自分なりの考え」を説明できるか、“体感”していただくことを目指します。					
担当教員は、シンクタンク(think tank)におけるコンサルタントとして、環境・SDGs分野における実務経験があります。授業では、実務経験に基づく具体的な話題をテーマに、学問的知識とビジネス感覚を駆使して困難な課題に挑戦することの“面白さ”をお伝えすることを目指します。					
達成目標 / Course Goals					

<p>SDGsについて全体像を把握し、その概要を説明できる。 個々のゴールについて、概要を把握して問題意識を持ち、その意見をまとめて他者に伝えることができる。 SDGsについて、自分ができるところを考え、実行できることが何か、またそのためにどのような力をつけるべきかを考えることができる。</p> <p>異分野の多様な立場のプレイヤーと、社会問題の解決に向けたコミュニケーションをとることができる。</p>	
<p>授業計画（授業の形式、スケジュール等）/ Class schedule</p> <p>() 下記は5月末時点での予定です。 4日間の“日付”は変わりませんが、例えば【2日目】が1～4限となる場合など “時間帯”は変更の可能性があることに、ご注意ください。</p> <p>【1日目：8/29（火）1限～5限】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. イントロダクション / SDGsの概要（1）『開発途上国』とSDGs 2. SDGsの概要（2）『共通言語』としてのSDGs 3. SDGsの概要（3）技術・社会の『イノベーション』とSDGs 4. グループ・ワーク（1）SDGsとは何か？ 5. 課題とアプローチ（1）SDGsの課題（資金不足、トレードオフ） <p>【2日目：8/30（水）1限～3限】</p> <ol style="list-style-type: none"> 6. 課題とアプローチ（2）ESG投資、SDGs事業（社会事業、社会起業） 7. グループ・ワーク（2）どのようにすればSDGsに貢献できるか？ 8. 実務者ゲスト講義（1）「企業のサステナビリティ実現に向けた取り組みの変遷（仮）」 <p>【3日目：9/14（木）1限～3限】</p> <ol style="list-style-type: none"> 9. SDGsへの取組み（1）民間企業（大企業、中小企業、スタートアップ） 10. SDGsへの取組み（2）行政機関（政府、地方自治体） 11. 実務者ゲスト講義（2）「数理モデル&シミュレーションと社会課題解決（仮）」 <p>【4日目：9/15（金）1限～4限】</p> <ol style="list-style-type: none"> 12. SDGsへの取組み（3）市民（消費者・労働者、NPO・NGO） 13. 社会システムとして捉える（エコロジカル近代化論、脱成長論） 14. グループ・ワーク（3）SDGsの達成に向けて何ができるか？ 15. まとめ（この授業で学んだことの整理） 	
<p>授業時間外学修（事前・事後学修）/ Independent Study Outside of Class</p> <p>グループ議論/グループワークに向けた準備（予習）として、また、授業で紹介する内容（書籍・文献など含む）を参考として受講生が興味・疑問を持ったことについて、週4時間を目安に、学習を行なうことが望ましい（図書館の蔵書、Webサイトの活用など）。</p>	
<p>キーワード / Keywords</p>	<p>SDGs、技術・社会のイノベーション、ESG投資、社会事業 / 社会起業、領域横断的授業、ICT活用、実務経験教員科目</p>
<p>履修上の注意 / Notices</p>	<p>少しでも興味や疑問を持ったときに、その“成長の芽”を自分で育てていける、積極的な学習意欲を有することが望ましい。</p> <p>また、毎回のグループ議論/グループワークに積極的に協力・貢献しようとする態度が必要です。著しく非協力的な場合には、単位の習得が困難となる場合があります。</p>
<p>教科書 / Required Text</p>	
<p>参考書 / Required Materials</p>	
<p>教科書・参考書に関するその他通信欄</p>	<p><教科書> 教科書は使用しない。授業ごとに資料を準備しMoodleで提供する。</p> <p><参考書等> 『SDGs（持続可能な開発目標）』蟹江 憲史(著)（中公新書） https://www.globalgoals.org/</p>
<p>成績評価の方法 / Evaluation</p>	<p>「達成目標」に示した観点から、中間レポートおよび期末レポートで評価する。また、毎回のグループ議論/グループワークへの取り組みについて、評価に加える可能性がある。</p> <p>（評価のうち「秀（S）」となる者は、総合点で90%を越えているもののうち成績が上位の者から10%程度を目安として決定する。）</p>
<p>関連科目 / Related course</p>	
<p>リンク先URL / URL of syllabus or other information</p>	

授業追加情報 / Course add information

使用言語 / Language	日本語
アクティブ・ラーニングの実施 / Active learning	実施あり
アクティブラーニングの実施内容 / Contents of Active learning	グループ議論 / グループワーク
実務経験教員科目 / Work Experience teacher's subjects	該当する
データサイエンス科目 / Data Science subjects	
他学部・他研究科等学生の履修可否 /	可